

2023年2月に開催された WOA 水生委員会のレポートへの 日本のコメント

(Annex 15 水生コード ウイルス種である伝染性脾臓・腎臓壊死ウイルス (ISKNV) のすべての遺伝子群の感染症のリスト登録)

【本文仮訳】

水生委員会は、今回のリスト疾病への登録の提案は、既にリスト疾病である「マダイイリドウイルス (RSIV) による感染症」の疾病名を「伝染性脾臓・腎臓壊死ウイルス (ISKNV) による感染症」に修正するものであると改めて述べた。この提案は、RSIV 遺伝子群をリスト疾病として維持し、ISKNV 遺伝子群とイシビラメ赤体イリドウイルス (TRBIV) 遺伝子群も含めるものである。水生委員会は、いくつかの加盟国がこの変更案を支持したが、そうでない加盟国もいくつかあったことを確認した。

水生委員会は、メガロサイチウイルスの命名法がいくつかの混乱を引き起こしていることに留意した。これは、「ISKNV」が ICTV (International Committee on Taxonomy of Viruses) により認められているウイルス種の名称であり、また、ウイルス種の中の3つの遺伝子群のうちの1つの名称であるためである。水生委員会は、ウイルス種 ISKNV と遺伝子群 ISKNV に関する用語の明確性と一貫性を確保するために、第 1.2 章「水生動物疾病のリスト登録の基準」に照らして、ウイルス種 ISKNV による感染症の評価を見直し、更新した。

水生委員会は、疾病名を「メガロサイチウイルスによる感染症」としてリスト疾病への登録することを提案するコメントを検討した。水生委員会は、メガロサイチウイルス属には、ISKNV とスケールドロップ病ウイルス (SDDV) の2種が属することに留意した。このうち SDDV はリスト登載が検討されていないため、疾病名は ISKNV を含み SDDV を除外するように定義する必要があり、提案された疾病名には問題があると思われる。水生委員会は、リスト登録する疾病の範囲を明確にするために、第 1.3.1 条の疾病名を「ウイルス種 ISKNV のすべての遺伝子群による感染症」に変更することを提案した。

(中略)

コメント：

疾病の名称を「RSIV による感染症」から「ISKNV による感染症」へと変更することについて、WOAH と ICTV におけるウイルスの名称の整合性の観点から、現時点では本提案を支持しない。

現在 ICTV では、メガロサイチウイルスの分類を整理し名称変更を検討しており、WOAH とは異なる結論に至る可能性がある。混乱を避けるため、WOAH は ICTV における分類整理が終わるのを待つことを提案する。

(Annex 37 水生マニュアル第 2.2.9 章の改訂イエローヘッドウイルス遺伝子型 1(YHV1)による感染症)

【本文仮訳】

レポート本文

(中略)

5. 見かけ上健康な集団における無病を証明するためのサーベイランスに推奨される検査
nested RT-PCR が推奨されることを明確にした。水生委員会は、特定のリアルタイム PCR 法が検証され、
公表が保留されていることを承知している。

(中略)

付属文書 37

(中略)

5. 見かけ上健康な集団における無病を証明するためのサーベイランスに推奨される検査
見かけ上健康な集団における YHV1 の無病を証明するために、nested RT-PCR (Protocol 3)が推奨され
る。YHV の遺伝子型を決定するためには、増幅された PCR 産物の塩基配列を決定する必要がある。YHV1
については、2 段階 PCR で陰性であることが必要である。

(中略)

コメント：

日本は、2.2.9 章におおむね賛成であるが、一部について次のような異論がある。

まず、現在のドラフトでは、パラグラフ 4.4.2 で Conventional RT-PCR として 3 つのプロトコルを説明
しているが、表 4.1 およびセクション 6 では Conventional RT-PCR として 3 つのプロトコルが明示されて
いない。混乱を招く可能性があるため、該当箇所各プロトコルについて明示すべきである。

また、表 4.1 とセクション 5・6 では、無病証明のためのサーベイランスにおける検査方法に Conventional
RT-PCR の 1 つである nested RT-PCR を推奨しているが、nested PCR はコンタミネーションを起こす可
能性が高いことから、無病証明の検査方法には適さないと一般的に考えられている。Conventional RT-PCR
法よりも感度・特異性の高いとされているリアルタイム PCR 法の評価が終わっているならば、nested-PCR
よりもレポートで言及されているリアルタイム PCR 法を採用することを提案する。リアルタイム PCR 法
について、論文がまだ公表されていないのであれば、リファレンスラボラトリーが開発中の方法として記載
することを提案する。

表 4.1. 外観的に健康な動物のサーベイランスと外観に異常が確認される動物の調査のためにWOAHが推奨する診断法とその推奨レベル

Method	A. Surveillance of apparently healthy animals				B. Presumptive diagnosis of clinically affected animals				C. Confirmatory diagnosis of a suspect result from surveillance or presumptive diagnosis	
	Early life stages	Juveniles	Adults	LV	Early life stages	Juveniles	Adults	LV	Early life stages	
Wet mounts										
Histopathology						++	++	1		
Cell culture										
Real-time RT-PCR										
Conventional RT-PCR	++	++	++	1	++	++	++	1		
Conventional PCR followed by amplicon sequencing									+	
<i>In-situ</i> hybridization						++	++	1		
Bioassay					+	+	+	1		
LAMP										
Ab-ELISA										
Ag-ELISA										
Other antigen detection methods										
Other methods ³										

+++ = 最も望ましい性能と運用特性を持ち最適である。

++ = ほとんどの状況において、許容できる性能と運用上の特性を持つ方法であり、適している。

+ = 方法は適しているが、性能または運用上の特性により、状況によっては適用が制限される場合がある。

塗りつぶし枠 = この目的には適していない。